令和8年(2026年)
10-11月号
(通巻　226号)
2026年度

# 市立 いちかわ 自然博物館だより

あたりまえの風景に
あたりまえの生き物に
あたらしいときめきがある！



センニンソウ
種子から伸びる白くて長い毛を仙人の髭や白髪に見立て、名前の由来になったと言われています。

自然博物館収蔵写真

撮影日：2024年11月28日　撮影地：市川市動植物園

P1　いきもの写真館 センニンソウ
P2／3　センサーカメラを使った調査-4 オオタカの繁殖
P4　花を透明にして観る ディアスキア
P5　市川自然のトピック 秋が面白い！ ちょっとコアなカモ観察
P6　くすのきのあるバス通りから カナヘビの卵を見つけました
P6　ミニ解説　市川市域 土地利用の実際
P7　わたしの観察ノート ７～８月の記録
P8　ご案内

博物館だよりはカラー版をホームページでご覧いただけます。

センサーカメラを使った調査-4

# オオタカの繁殖

**センサーカメラ（自動撮影装置）の設置場所のひとつ「水場」は、オオタカのつがいの行動圏内にあります。つがいの行動範囲は一帯の公有地、民有地（農地を含む）に広がっていて、立ち入りできない場所が多くあります。カメラは、繁殖に関連するさまざまなできごとを記録しました。無人撮影によって、オオタカに悪影響を及ぼす巣や個体の直接観察をせずに、繁殖の様子を知ることができました。2025 年の記録を紹介します。**

## つがい

つぎの「交尾」と連続した動画から、それぞれ画像を切り出しました。奥の個体がメス、手前の個体がオスで、メスの方が大きいです。

**2025年4月6日撮影**



## 交 尾

オオタカが交尾などの繁殖行動を行う時は独特な鳴き声を発します。それは長田谷津の園路にいても気づくことができ、ほぼ毎年、聞かれています。交尾はカメラの前でいつも行われるわけではありませんが、2022年から2025年にかけては、毎年記録されました。

**2025年4月6日撮影**



## 親 子

左の個体が幼鳥、右が成鳥で親子です。区別は、おなか側の羽毛の模様が幼鳥は縦じま、成鳥は横じまです。成鳥の模様は写真ではわかりにくいですが、脚の付け根付近に、かろうじて横じまが見えます。動画でははっきり確認できます。

**2025年6月30日撮影**



## きょうだい

2025年は3羽が巣立ちました。2024年は2羽、2026年はゼロでした。センサーカメラの調査を始めた当初は幼鳥のデータを別扱いにしなかったので、過去の多数のデータを再調査すれば2023年以前の幼鳥の状況も明らかになります。

**2025年7月8日撮影**



## 謎の行動

写真の成鳥は、大きな肉片をくわえています。捕らえた獲物を解体した後に持ってきたと思われますが、特に食べる様子は写りませんでした。2025年に限って記録された行動で、6月中に異なる肉片で複数回、写っていました。この年の6月は異常な暑さだったので、幼鳥を水場へ誘導しようとしたのかもしれませんが、実際のところは不明です。

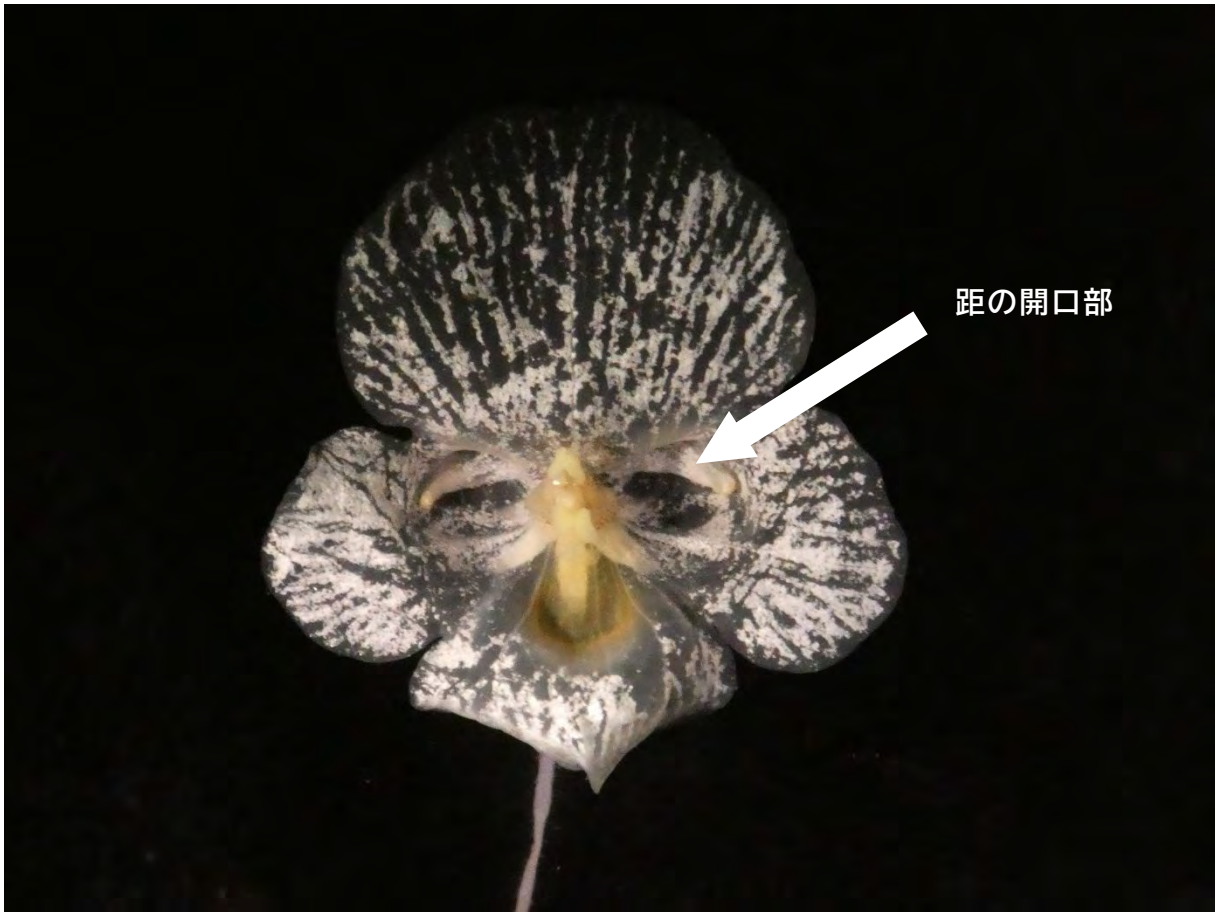
**2025年6月21日撮影**



## 花を透明にして観る＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

# ディアスキア

花を薬品で処理して透明にしました。一般的な押し葉標本だと花も平らになってしまいますが、この方法だと立体を保ったまま内部構造を見ることができます。印刷物にすることで結局、平面になってしまいますが、実物をそのまま見れば立体的に花のつくりを理解することができます。




ディアスキアの花

・ディアスキアは南アフリカ原産で、園芸品種が国内でも流通している。
・花には距(きょ)が 2 つあり、並列に並んでいる。距とは、花弁(かべん)や萼(がく)が長く伸びて袋状になったもの。
・写真では、フクロウの目のように見える部分が距の入口（開口部)。ここから、後方に細長い距が伸びている。
・距がひとつのスミレ類、ツリフネソウ、ムラサキケマン、ラン類では開口部に雄しべと雌しべを配置するが、距が 2 つのディアスキアでは 2 つの開口部の間に配置し、フクロウのくちばしのようになっている。
・ちなみにオダマキ類には距が 5 個あり、5 枚の花弁に各 1 個ずつの距がある。

# 市川自然のトピック
# 秋が面白い！ちょっとコアなカモ観察

## カモのオスのエクリプスとは

カモの仲間の多くは、オスが派手でメスが地味な色をしています。このオスの派手な姿は生殖羽（夏羽）といいます。生殖羽は繁殖にかかわる羽毛で、派手な姿でメスにアピールします。繁殖期が終わると、換羽（古い羽毛が新しい羽毛に生え変わること）を行い、非生殖羽（冬羽）という繁殖にかかわらない羽毛になります。カモのオスはこの非生殖羽が生殖羽に比べて、極端に地味で目立ちにくくなります。このオスの地味な非生殖羽を「エクリプス」と呼びます。エクリプスとは、日食や月食の「かげる」という意味で、派手な羽毛から地味な羽毛の変化を、見立てたものと思われます。種類によって様々ですが、ユーラシア大陸北部などで夏に繁殖期を終えたカモのオスは生殖羽からエクリプスへ換羽を行います。その後、秋に越冬地への渡りを行います。越冬地に到着すると、エクリプスから生殖羽への換羽を行い、おおよそ冬には生殖羽になります。その後繁殖行動を行い、つがいを形成します。そして春には生殖羽の状態で繁殖地へ向けて渡りを行います。カモはつがい形成を繁殖地ではなく、越冬地で行うため、冬に生殖羽になります。

## 身近なオナガガモで、エクリプスから生殖羽への変身を観察しよう！



図 1. オス　エクリプス
2016 年 9 月 19 日 習志野市 谷津干潟



図 2. オス エクリプスから生殖羽に換羽中
2015 年 10 月 18 日　東京都台東区 不忍池



図 3. オス　生殖羽
2017 年 12 月 18 日 市川市 じゅん菜池緑地



図 4. メス 非生殖羽
2015 年 11 月 15 日 市川市 じゅん菜池緑地

市川市の池や川で見られるオナガガモの場合、エクリプスの時期は 7-9 月頃です。渡ってくるのが、9-10 月なので、早い時期であればエクリプスの姿（図 1）を観察できることがあります。一見するとメス（図 4）のようですが、エクリプスのオスは嘴が水色です。その後、換羽が進み（図 2）ほとんどの個体が 12 月頃には派手な生殖羽（図 3）になります。

# カナヘビの卵を見つけました

今年は、暑い日もありましたが、雨で気温が低い日もあり、線状降水帯や局所的な豪雨で被害も出ました。「今年は、天気が良いのと程よく雨もあったので、大きい、品種も次々変わる、早く終わるよ」と、梨選果場の人が言っていました。

7月8日早朝、庭の草取りをしました。壁に立てかけたすだれをどかすと、ヤモリがいました。北側の通路の草を抜いていると、砂利の上に、3個の１センチくらいの白い卵がありました。自然博の方に聞くと「カナヘビの卵です。ヤモリは壁際に2個産みます」と。9月15日、玄関先で、子カナヘビを見ました。「あの卵からかえったのかも」と、見に行くと、殻は見当たりませんでした。

夏の間、用があった場所周辺で、去年は居なかったクマゼミの鳴き声を聞きました。8月4日、行徳弁天公園。13日、北方斜面林。八幡橋付近の市川学園。16日、京葉銀行北方支店付近。9月になると、雨が続き、涼しいくらいの日もありました。雨が止むとツクツクボウシやアブラゼミが、時々鳴きます。

（M.M.）

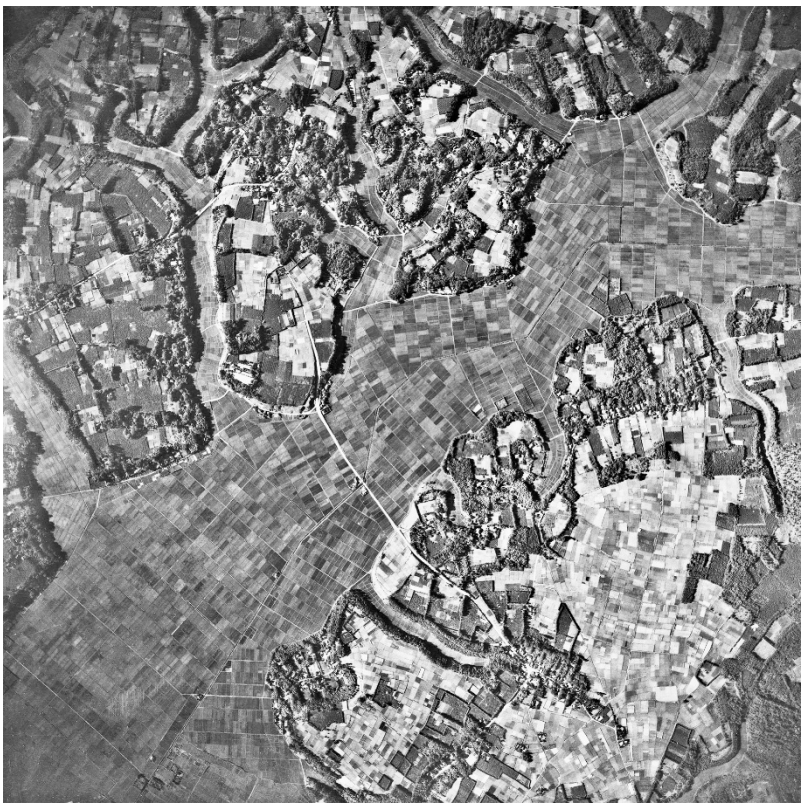
三二角军訊 No.10

# 市川市域

## 土地利用の実際

写真は1947（昭和22）年に撮影された市川市域北東部（大柏川中流部）の航空写真です。インターネットで「市川市 浜道橋」で検索するとマップが出てきます。

写真左下から右上に大柏川沿いの低地が伸び、長方形の水田が整然と並んでいます。そこから写真上下に斜面林に縁どられた谷津が伸び、その先の比較的白っぽく写っている長方形が、台地上の畑にあたります。



# わたしの観察ノート

**◆長田谷津より**

・園路にジムグリが出てきていました(7/6)。ヘビは探して見つかるものではないので、こういう小さな出会いの積み重ねで生息状況を推測します。

・ハエドクソウが咲き始めていました(7/12)。名前とは違って、清楚な花を咲かせます。

以上　金子謙一（自然博物館）

・クモを専門に研究している学生さんと、夜の観察園でクモ調査をしました(8/12)。様々なクモを発見してもらいました。中でも、普通種ですが、ワキグロサツマノミダマシが昼間よく通る場所で、昼間は見ないのに、何個体も網を張っていて驚きました。緑色がとても美しいクモでした。

**◆動物園より**

・昆虫の調査で、夜間、動物園内の一角を回ると、フクロウの声がしました(8/6)。近くの枝を見上げると、フクロウの成鳥が迷惑そうに、じろっとこちらを見ていました。普段は人がいない時間なので、警戒したのでしょう。

・動物園内に生えているセンニンソウは年々広がっています(8/27)。近くの低いコナラやイヌシデの上に覆いかぶさって綺麗な花を咲かせていました。

以上　稲村優一（自然博物館）

**◆江戸川より**

・江戸川にヒヌマイトトンボの調査に行きました(7/8)。オス、成熟メス、未熟メスを確認することができました。交尾中のペアも見られました。

金子謙一

**◆市川より**

・真間山南側斜面林で、ツクツクボウシが鳴きました(7/23)。去年より一週間ほど早く気づきました。

・暦の上では立秋、カネタタキやコオロギの鳴き声が聞かれるようになり、秋の気配が感じられます(8/7)。

・豪雨もあり、猛暑日、熱帯夜の少ない8月でした(9/4)。

以上　T.M.さん

**◆江戸川放水路より**

・干潟のヨシ原に漂着している木材片の裏側にザトウムシの仲間が何匹もくっついていました(7/15)。海でザトウムシを見かけたことはなかったので驚きました。その後、一緒に活動した大学生の方にヒトハリザトウムシという種類であることを教えていただきました。日本で唯一の海岸性のザトウムシだそうです。

**◆行徳鳥獣保護区(8/3)より**

・昆虫（特に蛾）に詳しい方と保護区の横を歩きました。道沿いのハマオモトにハマオモトヨトウの幼虫がいるのを教えてもらいました。ハマオモトの葉の内部を食べるような食べ方をしていました。綺麗なイモムシでした。

・サクラの葉の上にモンクロシャチホコの成虫がいました。

以上　稲村優一

7月に入ると30度を超える猛暑となりましたが、8月になると雨がよく降りました。8月13日の午後から夜にかけて線状降水帯が発生した大雨となり、市川市内でも大きな被害が出て「令和8年8月千葉豪雨」と命名されました。

# 自然博物館のWebサイト（ホームページ）は

# 情　報　満　載

## 長田谷津散策会

10 月 17 日（土）
11 月 15 日（日）
12 月 12 日（土）
月ごとに土・日を
交互に開催

## スナヤツメ・レスキュー

10 月 18 日（日）
11 月 14 日（土）
12 月 13 日（日）
月ごとに土・日を
交互に開催

## ホトケドジョウ・レスキュー

10 月 24 日（土）
11 月 29 日（日）
12 月 19 日（土）
月ごとに土・日を
交互に開催

## 長田谷津　湿地環境整備

10 月 25 日（日）
11 月 28 日（土）
12 月 20 日（日）
月ごとに土・日を
交互に開催

## 長田谷津の解説ページ

・深掘り解説
・全 20 ページ
・画像、動画あり
・ひらがな解説あり
・すべて書き下ろし

## 江戸川放水路の解説ページ

・深掘り解説
・全 15 ページ
・画像、動画あり
・ひらがな解説あり
・すべて書き下ろし

## 自然観察週報

・学芸員の観察記録
・ほぼ毎週更新
・エクセルファイル添付
・過去のファイルも添付
・1998 年からあります

第39巻　第4号　（通巻第226号）
令和８年10月１日　発行
編集・発行/市立市川自然博物館
（市川市教育委員会教育振興部）
〒272-0801千葉県市川市大町284番地
☎047(339)0477